

東嶺山だより

令和2年1月号 通刊144号

355-0044 東松山市正代778-3 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email:semyojuji@yahoo.co.jp HP:tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

謹賀新年

子年(ねどし)を迎えて



■お正月は菩提寺にお参りとお墓参りをしましょう

正月というと、まず思い浮かべるのが、「初詣」。初詣というと神社を連想するかも知れませんが、本来、この習わしは、菩提寺に行き、除夜の鐘を聞き、年送りをして、そのまま寺に留まり、そこで元旦を迎えて、仏様に新年のご挨拶をして祈願することだったそうです。除夜と初詣は一つのものだったのです。

つまり、神道だけの行事ではなかったのです。昔は盆と正月は、先祖の霊をお迎えする日でした。平安時代になると盆と正月に精霊をお迎えする魂祭りが行われていました。盆と正月に先祖の霊が帰ってくると信じられていたのです。

混雑や車の渋滞が起こる中で、あえて遠方に福を求めてでかけることなく、地元のお寺や故人が眠るお墓にお参りすることが、仏の正月にふさわしいと思います。

■「正月祈願祭(転読大般若会てんどくだいはんにゃえ)」

檀家の皆様をはじめ特別祈願された方々の「心願」を、千手観音様に祈願します。ぜひ、初詣がてら皆様ご家族お揃いでご参詣ください。

1月2日(木) 午前10時



●**祈願札** 木札—3000円 紙札—1000円

* 祈願内容

家内安全・交通安全・商売繁盛・病氣平癒・合格祈願・その他諸願成就

* 各種お守りもあります。

■奉仕作業お疲れさまでした。

12月15日(日)寒い中、ありがとうございました。10月の台風による水害の影響で、山の半分程度の高さまで浸水し、稲わらや木材などのゴミが沢山残されていました。これらのゴミは片付けるのは困難でしたが、山裾の整備と枯れた竹・混み合った竹の伐採と観音堂・地藏堂・天神様の清掃をしていただきました。

■ 8000万人の初詣 ～日本人は信仰心を失った？～

ある年のお正月の3ヶ日だけの初詣の人数です。日本人は宗教心がないとか、信仰心を失ったとか言いますが、日本人くらい信仰のあつい民族はいないような気がします。実際、何かと言えば神社やお寺に参拝しています。初詣やお彼岸・お盆などの「年中行事」や、いわゆる七五三などの「通過儀礼」の時にお参りします。

日本人にとっての拝み方を改めて考えてみると、不思議な点が多い浮かびます。

第1は、相手がお釈迦様か、阿弥陀様かなどほとんど問題にしないことです。神様か仏様かも問わないでしょう。つまり、神様でも仏様でも、何か自分を越えた力を持っているような相手に手を合わせるのです。日本では、昔から八百万の神がある、と信じられてきましたので、どの神様に祈ってもいいというわけです。

仏様にしても、如来、菩薩、明王、諸天などがあり、菩薩にも弥勒、観音、地藏などがあって、仏様の世界を描いた曼荼羅には大日如来を中心に三千以上の仏様が居並んでいます。やはり、それらを区別せずに手を合わせています。

イエス一人を仰ぐキリスト教、マホメットだけを信ずるイスラム教からみれば、この驚くべき多神・他仏の世界はとても理解できないでしょう。これが宗教かと疑われても仕方が無いかも知れません。しかし、私たちからみれば、まさに宗教であり、手を合わせる対象がたくさんあることに違和感がありません。

第2は、そういう神や仏を拝むとき、何か御利益を期待しがちだという点です。キリスト教など一人の超越した人物を拝む場合、ある絶対者の前に頭を垂れて、自分の至らなさを顧みる。そして励ましを求めるという精神的、道徳的な要素がより強いように思います。

第3は、手を合わせるという拝み方です。私たちにとっての当たり前前の合掌という形は、決して世界で通用するわけではありません。キリスト教やイスラム教の信者からみると違和感を感じる形なのです。



■ 今月のことば

「一というはじめの数にふみいだす日なり 今日なり 正しくあらん」 九条武子
松原泰道「心の杖ことば366日下」より

元旦を詠んだ九条武子さんの一言です。“薄命の歌人”といわれた武子さんが、悲しみと淋しさの毎日を、他のためにつくし、また自分を充実させた誓願の宗教生活のもとが、この作品に感じられます。

「一」という数字は、自然数の最初の数です。1月1日はスタートの日です。元旦を迎えて「正しくあらん」と誓うのです。「一というのははじめの数に踏みいだす日なり」と自分に言い聞かせ、重ねて「今日なり」と、彼女は確認します。

「一」は、仏教思想では初めであるとともに、法(真理)・道・絶対を表します。したがって、「一」はく唯一(ただ一つ・これひとつだけ)です。

親鸞聖人はいいます。「唯は、ただこの一つ。二つ並ぶを嫌う言葉なり」と。「嫌う」は、くまだ他にある・代わりがあるとの考え方を嫌う>の意味でしょう。道元禅師は、一を「只」と解します。只は、く今のみ・今しかない>ということです。

このように考えてくると、元旦だけでなく、毎日を「一月一日」と心得て生きるのが、本当の生き方であることが分かります。

■ 1月の予定

- 祈願祭(転読大般若会) 2日
- 坐禅会(7時)・写経会(8時) 12、26日
- 道元禅師降誕会 26日
- 寺子屋 4、11、18日